

外国人留学生指導のポイント

～令和5年3月に日本介護福祉士養成施設協会が作成した「留学生指導についての指導のポイント(改訂版)」 「留学生のための学習ハンドブック」を活用し、養成校が留学生の国家試験対策を行う際に参考にすべき点を共有する～

学習ハンドブック はじめに

※なぜ、介護の仕事をするために、学校で勉強する必要があるのでしょうか。

- ☞ 養成校で自分たちが「介護・福祉」を学ぶ意味をしっかりと理解しておくことが必要
- ☞ 「支える」ということは、直接的に介助や世話をするだけでなく、それに必要なお金を国民が出しあっていることなどを意味している。

☞ そのため、専門職である介護福祉士には、たくさん
さんの知識や技術が必要となる。

病気や障がいの種類や特徴はたくさんあり、
生活スタイルは一人ひとり同じではない。

☞ 介護の仕事をした時の給料は、どこからやって
くるのでしょうか。

☞ 「こころとからだのしくみ」「人間と社会」の
領域での知識や技術を基に、「介護」実践でき
る人が、介護福祉士と言われる専門職である。

※在留資格「留学」から在留資格「介護」へ

☞在留資格「留学」

日本の学校で教育を受けるためのものであり、働くことが求められていない。ただし、「資格外活動許可」を受けることによって、アルバイトをすることができる。

留学生の在留資格は、外国人が日本の高校、専門学校、大学等で教育を受ける場合に認められる在留資格。学校を卒業したり、退学した場合は在留資格が認められない。

☞ 在留資格「介護」

介護福祉士の資格を持つ外国人が介護の仕事に従事するための在留資格です。

- ・ 家族(配偶者・子)の帯同が可能のため、日本で一緒に生活ができる
- ・ 事業形態などに制限がないため、他の在留資格ではできない介護の就労が可能
- ・ 在留期間は、5年ごとにビザの更新が必要ですが、回数の制限がないため、定年まで日本で就労ができる
- ・ 採用制限がないため、多くの外国人労働者が受け入れられる

学習ハンドブックの内容

1. 日本で介護を学ぶにあたって・・・P.8～12
※「日本の介護」をもっと理解しよう
2. 介護の学校の授業での学び方・・・P.13～22
※「授業で大切なこと」を確認しよう
3. 授業以外での学習方法について・・・P.23～27
※「自己学習」の方法を身につけよう
4. 日本語で介護を学ぶということ・・・P.28～33
※「国家試験の日本語」これは絶対に理解しよう

I .日本で介護を学ぶにあたって

1. 日本の介護とは

(1)自立支援の考え方

何でも手伝ってしまうと、利用者の「できる力」をなくしている場合がある。

利用者一人ひとりをよく観察して、「できることは何か」・「難しいことは何か」を判断する。

その上で、利用者のできることを活かして介護の方法を選択していく。
また、利用者が「したいことは何か」を自分で決められるように支援することが、とても大切である。

I .日本で介護を学ぶにあたって

1. 日本の介護とは

(2)介護過程の考え方

どのように学習をすれば利用者の「できることは何か」「難しいことは何か」「したいことは何か」がわかるのか。 「介護過程」

※介護過程とは、利用者の話したことや行動について、「なぜ」と思うことから始まる。

ガイドブックの例示・・・原因・理由をはっきりさせていく
考えるクセをつけていく

I .日本で介護を学ぶにあたって

1. 日本の介護とは

(3)チームケアの考え方

日本の介護とは、利用者一人ひとりをよく観察して、自分で決めてもらうことを大切にしている。

課題に対して、その原因や理由を考えながら、チームで解決を繰り返す。

課題を解決するためには、利用者の状況に合わせて、医師や看護師、リハビリテーションの専門職、栄養士、介護支援専門員や生活相談員等の専門職と一緒に行う必要がある。

I .日本で介護を学ぶにあたって

1. 日本の介護とは

(3)チームケアの考え方

利用者の生活は、こうした専門職との関係で支えることができている。

⇒「チームアプローチ」の考え方

※皆さんが目指している介護福祉士は、他の専門職の役割を理解している。他の専門職と課題の解決に向けた話し合いができる知識や技術を持っていることが必要である。

I .日本で介護を学ぶにあたって

1. 日本の介護とは

(4)介護福祉士の職業倫理

日本介護福祉士会倫理綱領

- ①利用者本位・自立支援
- ②専門的サービスの提供
- ③プライバシーの保護
- ④総合的サービスの提供と積極的な連携、協力
- ⑤利用者ニーズの代弁
- ⑥地域福祉の推進
- ⑦後継者の育成

I .日本で介護を学ぶにあたって

1. 日本の介護とは

(4)介護福祉士の職業倫理

「倫理綱領」・・・介護福祉士の仕事をするときに大切にすること、
守らなくてはならないことについて書かれている。

介護福祉士として働くようになったら、自分の介護の方法が正しいかどうか、心配や不安が出てくる。

その時は、「倫理綱領」をもう一度読んでみる。

介護福祉士になっても、学びは終わっていない。働きながら、よりよい介護について考えていくことが大切。

I .日本で介護を学ぶにあたって

1. 日本の介護とは

(4)介護福祉士の職業倫理

介護現場で介護福祉士に要求される実践は「倫理的」であることが何よりも大切。

⇒ 学習した知識や技術を用いて、利用者や家族等が満足する介護サービスを常に提供することが求められている。

介護の専門的知識や技術を習得しただけでは利用者や家族を満足させることは難しい。

専門技術や知識を倫理的配慮のもとに実践することが求められる。

I .日本で介護を学ぶにあたって

2. 介護の学校で学ぶということ

(1)介護の学校で学ぶ意義

日本で介護の仕事をしている人は、約200万人と言われている。

その人たち全員が、介護の専門的な知識や技術を勉強していない。

介護福祉士になるために学校で学習するということは、介護の専門的な知識や技術を持って介護の仕事始める。

介護福祉士国家資格を持つということは、介護の世界で、リーダーになることが期待されている。

I .日本で介護を学ぶにあたって

2. 介護の学校で学ぶということ

(2)介護の学校で学ぶ姿勢

①授業の内容がわからない＝国家試験の問題も分からない

学校では、介護の専門的な知識や技術を学ぶ。

授業の内容は、国家試験の内容に関係している。「授業の内容がわからない」をそのままにしておくと、国家試験の学習でもわからなくなることが多くなる。

分からないことは、授業の後、すぐ先生に質問する。

※質問の意識化 疑問を解消する

I .日本で介護を学ぶにあたって

2. 介護の学校で学ぶということ

(2)介護の学校で学ぶ姿勢

②休むことも大切

毎日の授業は、朝から夕方まで長い時間学習している。そのため、授業と授業の間の休憩や昼休みは、友だちと授業の話をして復習したり、頭を休めたりして、次の授業も集中できるように工夫しましょう。学校で、集中して学習できるようにしましょう。自分の好きなことをして、気持ちをよくする、リフレッシュする時間も必要。自分がリフレッシュできる方法を見つけましょう。

I .日本で介護を学ぶにあたって

2. 介護の学校で学ぶということ

(2)介護の学校で学ぶ姿勢

③自分から学んでいけるようにしよう

「分からないことは、分からないままにしない」

介護福祉士としての仕事が始まったら、自分の力で学習する必要がある。学校には先生がいるが仕事の場所にはいない。

学生のうちに、自分で調べて考える力を持っておく意識化を図るようになる。

※自分で調べる 専門書を読む 他の人に聞く など

I .日本で介護を学ぶにあたって

2. 介護の学校で学ぶということ

(3)学業と生活

アルバイトをしている人も多い。アルバイトをし過ぎて、学習ができなくなるのは、良いことではない。

試験前や実習期間中は、アルバイト先と相談して、アルバイトの時間を少なくするなど、学習に集中できる環境を意識しましょう。

アルバイト先で少なからぬ場合は、学校の先生に相談しよう。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

1. 入学から卒業までのカリキュラムを理解する

(1)カリキュラムについて

「科目」を4つのグループに整理・・・4領域

- ①人間と社会・・・・・・・・・・240時間以上
- ②介護・・・・・・・・・・1,260時間以上
- ③こころとからだのしくみ・・・300時間以上
- ④医療的ケア・・・・・・・・・・50時間以上

※合計・・・1,850時間以上

※①～④の知識や技術は、1つ1つではなく、全部が関連している。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

1. 入学から卒業までのカリキュラムを理解する

(1)カリキュラムについて・・・事例

認知症の症状が少しあるBさんは、はじめて通所介護(デイサービス)を利用します。Bさんの家族は「家のお風呂は危ないから、デイサービスで入浴してほしい」と言っています。でも、Bさんは、デイサービスのお風呂に入りたくないです。

- ・領域「介護」の生活支援技術・・・入浴介助
 - ・領域「人間と社会」の人間関係とコミュニケーション
 - ・領域「こころとからだのしくみ」の認知症の理解
- ※「社会の理解」「介護過程」などにもつながる。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

1. 入学から卒業までのカリキュラムを理解する

(2)実習について

実習では、全ての科目が関連している。

実習先で見たり経験したりしたことは、次の学習につながる。

文化や習慣が違うことでびっくりすることもあると思います。でも、利用者と接することで気が付くことがある。困ったときは、学校の先生や実習先の人に質問して、解決していきましょう。

※実習の3つの目的

※実習で何を学ぶのか

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

1. 入学から卒業までのカリキュラムを理解する

(2)実習について

実習の3つの目的

- ①統合と応用の力の獲得
- ②介護の視点の体得
- ③チームワーク(連携)のあり方

実習で何を学ぶのか

- ①実習施設・事業所の理解
- ②利用者の理解
- ③個別介護の理解

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

2. 授業を受けるとき

(1)授業を受けるときのポイント

- ・ 授業の前に授業概要(シラバス)を読んで、何を学ぶのか確認してから授業を受ける。
- ・ 授業概要(シラバス)は、いつも持っておく。
- ・ 授業概要(シラバス)は、先生から言われた時、すぐ見ることができるようにしておく。
- ・ その日の授業で学ぶところは、そのページを授業の前に読んでおく。
- ・ 授業の前に読んでいて、分からない・難しい言葉などはチェックしておく。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

2. 授業を受けるとき

(2)課題(宿題)について

- ・ 課題の文章をしっかりと読んで、何を答えればよいか理解してから始める。
- ・ 答えを書き終えたら、文字の間違いや書き忘れがないか確認する。
- ・ 答えの確認をするときは、声に出して読んでみる。
- ・ テキストを見て課題をした場合、テキストのページを解答用紙に書く。もう一度学習するときに、必要なページをすぐにかけることができる。その時、他の科目のことも書いてあるときは科目名とページを書く。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

2. 授業を受けるとき

(2)課題(宿題)について

- ・ 課題をしたとき、読むことが①難しい、②意味が理解できない、③内容が難しい言葉があったら、マーカーを使って色を付けるなど、目立つようにする。
- ・ 課題で、難しいこと・分からないことは、必ず先生に聞いてわかるようにする。そのままにしておくと、今後の学習が進まなくなる。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「人間と社会」

- ①科目の種類・・・「人間の尊厳と自立」「社会の理解」
「人間関係とコミュニケーション」
「人間と社会に関する選択科目」

②学びの目的

- ・福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基礎となる倫理観を養う
- ・人間関係の形成やチームで働く力を養うため、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「人間と社会」

②学びの目的

- ・ 対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。
- ・ 介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につける。
- ・ 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「人間と社会」

③学習のポイント

「人間の尊厳と自立」

⇒利用者の「自己決定」を尊重する介護福祉士の態度を学ぶ。

「人間関係とコミュニケーション」

⇒利用者の「思い」を理解するコミュニケーションについて学ぶ。

「社会の理解」

⇒日本の福祉制度や福祉サービスを学ぶ。

Ⅱ. 介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1) 領域「人間と社会」

④ 国や文化の違い(この領域に関する国や文化の違いについて)

- ・ 「尊厳」や日本国憲法「基本的人権」に関係する考え方

⇒ 利用者を大切に価値ある存在(= 尊厳の保持)として介護する。

相手を大切にする制度は、文化や考え方で違う。どのように違うのかを先生やクラスメイトと話し合う。また、介護現場で利用者の「自己決定」を大切にする介護が何かを考えてみる。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「人間と社会」

④国や文化の違い(この領域に関する国や文化の違いについて)

- ・人と人との距離感やコミュニケーション

⇒日本の介護現場では、介護されることを申し訳ないと思う利用者もいる。

利用者の中には、自分の希望する介護を「遠慮する」人もいる。

みなさんの国では、利用者は介護されることをどう感じていますか。先生やクラスメイトと話し合う。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「介護」

①科目の種類・・・「介護の基本」「コミュニケーション技術」
「生活支援技術」「介護過程」

②学びの目的

- ・介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。
- ・介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「介護」

②学びの目的

- ・ 本人、家族との関係性の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。
- ・ 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。
- ・ 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「介護」

②学習の目的

- ・各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「介護」

③学習のポイント

介護の知識は、「人間と社会」「こころとからだのしくみ」の領域で学ぶ内容もある。介護の領域を学習するときに、他の領域で同じ言葉や考え方が出ていないか確認すると、介護の領域が理解できる。

介護の技術は、学校で学習した介護と、実習や介護現場でのアルバイトで見たこと、聞いたことに違いがあるかもしれない。学校で学習することは介護の基本。「なぜ違うのか」と質問して確認する。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「介護」

③学習のポイント

☞介護過程の理解

- ・介護するときに、その根拠(理由)は何かを意識して考える。
- ・「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」のすべての領域で学んだ知識や技術を活用する。
- ・生活のなかで困っていることがある利用者へ、どのような支援をするか考えながら学習する。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「介護」

③学習のポイント

☞理論と実践を紐づけた理解

- ・ 学校で学習したことと、実習や介護のアルバイトで知っている利用者の様子を見て、よいケアは何か考えてみる。
- ・ ハンドブックP14の事例のように、利用者の問題を自分で考えてみる。考えたことを先生やクラスメイトと話し合う。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「介護」

④国や文化の違い(この領域に関する国や文化の違いについて)

- ・ 整容(身だしなみ)や整理整頓について

⇒アクセサリーや清潔について考え方が違うことがある。大切にしていることを先生や友達に話してみる。

温度や湿度、利用者の好みで、布団の種類が多い。

靴を脱いだら、あとで履きやすいように、揃えておくマナーがある。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「介護」

④国や文化の違い(この領域に関する国や文化の違いについて)

- ・健康や生活様式についての考え方

⇒スポーツの習慣や睡眠時間など健康についての考え方や、1日の塩分量や食事のマナーや方法などは、国や文化、人によっても違う。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「こころとからだのしくみ」

①科目の種類・・・「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」
「認知症の理解」「障害の理解」

②学びの目的

- ・介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「こころとからだのしくみ」

②学びの目的

- ・ 認知症や障害のある人の生活を支えるという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。
- ・ 認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「こころとからだのしくみ」

③学習のポイント

人間の体のつくりや、病気について理解することが最も重要。
先ず母国語で体のつくりのや病気について正しく理解する。日本語で
どう書くか、どう発音するかを何度も学習して憶えると、この領域を
理解することになる。医学用語は漢字が難しいので、日本人でも苦労
する。

体のつくりがどうなっているかのイラスト等を活用するのも1つ。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「こころとからだのしくみ」

④国や文化の違い(この領域に関する国や文化の違いについて)

- ・「死ぬこと」について

⇒人が死ぬことについての考え方

病気についての考え方

治療についての考え方

などは、国や文化、人によっても違う。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「医療的ケア」

①科目の種類・・・「医療的ケア」

②学びの目的

- ・医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「医療的ケア」

③学習のポイント

領域「こころとからだのしくみ」と同じく、体のつくりの理解が重要。

生命に直接的に危険を及ぼす可能性のある「医行為」を介護福祉士が実施することを意識して学ぶ必要がある。滅菌と殺菌の違いを正確に理解したり、医学的な知識を正確に実技に生かしていく必要がある。

また、医療的ケアが必要な人とは、どのような身体的状態であるかを考えていくことも「医療的ケア」の知識と技術の大切さが理解できる。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「医療的ケア」

④国や文化の違い(この領域に関する国や文化の違いについて)

- ・病気や障害があっても「尊厳」を大切にした生活

⇒医療技術の進歩や医師に診てもらえる機会や回数は、国によって違う。

医療的ケアを受けながら、生活することに対する考え方は、国や文化によって違う。

Ⅱ.介護の学校の授業での学び方

3. 領域ごとの学び

(1)領域「医療的ケア」

④国や文化の違い(この領域に関する国や文化の違いについて)

- ・清潔について

⇒気温や湿度など季節に応じて、清潔に生活するための工夫は、国や文化によって違う。

Ⅲ.授業以外での学習方法について

1. テキストを活用した学習

- ☞授業以外でテキストを使って学習ときは次のことを意識する。
- ・テキストを読むときは声を出して読む。
 - ・大切なキーワードは何度も書く。
 - ・キーワードは他の科目でも出てくることがあるので意識する。
 - ・関係のある科目は一緒に学習する。

例:「生活支援技術」と「こころとからだのしくみ」は一緒に確認。

例:「社会の理解」を学んでいるとき、「介護の基本」のテキスト、
〇〇ページと書いてあれば、そのページを確認。

Ⅲ.授業以外での学習方法について

2. 参考書などを使った学習

- ・ 参考書は先生が勧めたものを活用する。
- ・ 参考書の言葉の使い方とテキストや授業と違う場合があるので注意。
- ・ 生活支援技術は、学んだ技術とやり方が違う場合がある。なぜそうするのかと疑問に感じたことは必ず先生に聞く。
- ・ いろいろな参考書を使って学習する方法もある。まずは、1冊の参考書だけを使って、しっかりと学習する。
- ・ 参考書で学習する場合は、授業のテキストや資料も一緒に見ながら学習する。一緒に見ることで内容がわかりやすくなる。

Ⅲ.授業以外での学習方法について

3. 国家試験対策

- ・「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の4つの領域から出題される科目をしっかりと確認する。
4つの領域の科目でそれぞれで何を学ぶかを確認する。
- ・国家試験は基本の問題が多く出題されるので、しっかりと基本を理解する。
 - ①介護保険制度の第1号被保険者は市町村に住所がある65歳以上の人。
 - ②右半身麻痺のある人の衣服の着脱は、左側から脱いで右側から着る。
 - ③認知症の中核症状には、「記憶障害」「見当識障害」等がある。

Ⅲ.授業以外での学習方法について

3. 国家試験対策

- ・ 国家試験では科目ごとに短文事例問題や総合問題として、事例問題が出題される。

事例問題ではどのように解答するとよいのか考える。

☞事例を読み、何が問われているかを理解する

☞事例の利用者を理解する

- ・ 年齢、性別、心身の状況(要支援・要介護状態、障害支援区分等)
- ・ 利用しているサービス、利用したいと考えているサービスの理解
- ・ 疾病とそれに伴う症状の理解

Ⅲ.授業以外での学習方法について

3. 国家試験対策

☞事例の利用者を理解する

- ・ 誰とどこで生活をしているのかを確認する。
- ・ これから先、誰とどこで生活をしたいと考えているかを確認する。

※過去の国家試験問題で使われている言葉や表現に慣れることが必要。

また、繰り返し使用されている言葉などを確認する。

そのために受験する3年前からの国家試験問題にチャレンジする。

※過去の国家試験問題にチャレンジするときの注意点

- ・ 法律や制度は内容が改正されていることがある。

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

- ① 人間の尊厳と自立 なし
- ② 人間関係とコミュニケーション . . . 1問
- ③ 社会の理解 8問
- ④ 介護の基本 4問
- ⑤ コミュニケーション技術 3問
- ⑥ 生活支援技術 6問

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

- ⑦ 介護過程 2問
- ⑧ 発達と老化の理解 3問
- ⑨ 認知症の理解 5問
- ⑩ 障害の理解 7問
- ⑪ こころとからだのしくみ 8問
- ⑫ 医療的ケア 1問

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

⑬ 総合問題 8問

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

① 人間の尊厳と自立・・・・・・・・・・なし

※学習課題(キーワード等)

・ サービス提供責任者の役割

② 人間関係とコミュニケーション・・・・1問

※学習課題(キーワード等)

・ 自己覚知

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

③ 社会の理解 8問

※ 学習課題(キーワード等)

- ・ 地域包括ケアシステム ・ 地域福祉
- ・ 自助・互助・共助・公助 ・ 日本の法律
- ・ 社会保障財源 ・ 介護予防 ・ 障害福祉計画
- ・ 介護予防・日常生活支援総合事業

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

③ 社会の理解 8問

※ 学習課題(キーワード等)

- ・ 障害者総合支援法の内容 ・ 障害福祉制度
- ・ 障害福祉サービスの利用手続き ・ 自閉症
- ・ 共生型サービス ・ 障害者虐待防止法
- ・ 成年後見制度 ・ 生活保護制度

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

④ 介護の基本・・・・・・・・・・・・・・・・・・4問

※ 学習課題(キーワード等)

- ・ ICFの構成要素 ・ 高齢社会白書の最新データ
- ・ 認知症対応型共同生活介護での介護
- ・ 訪問介護事業所 ・ サービス提供責任者の役割

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

⑤ コミュニケーション技術 3問

※ 学習課題(キーワード等)

- ・ カウンセリング技法
- ・ 利用者への受容
- ・ 構音障害のある人への対応
- ・ 知的障害を伴う自閉症

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

⑥生活支援技術・・・・・・・・・・・・・・6問

※学習課題(キーワード等)

- ・ 介護保険の給付対象となる住宅改修
- ・ バランスガイド ・ 日本の食事
- ・ 清拭の手順 ・ 食中毒の原因菌 ・ 服薬(睡眠薬)
- ・ 消費者問題 ・ 不眠 ・ 安眠を促す環境

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

⑦ 介護過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・2問

※学習課題(キーワード等)

- ・ 介護過程の展開の基礎
- ・ 短期目標
- ・ 優先すべき課題

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

⑧ 発達と老化の理解 3問

※ 学習課題(キーワード等)

- ・ 成長と発達 ・ 乳幼児期の発達 ・ 心不全
- ・ 姿勢による呼吸の変化 ・ 糖尿病
- ・ 多職種の業務内容
- ・ 各専門職における業務の範囲

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

⑨ 認知症の理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・5問

※ 学習課題(キーワード等)

- ・ オレンジプラン ・ 認知症高齢者の推計値
- ・ 中核症状とBPSD症状 ・ せん妄
- ・ 認知症の初期症状 ・ 各認知症の特徴と症状
- ・ 家族介護者に対する助言

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

⑩障害の理解・・・・・・・・・・・・・・・・7問

※学習課題(キーワード等)

- ・ 障害者差別解消法 ・ 筋ジストロフィ
- ・ 脊髄小脳変性症 ・ 脳血管疾患 ・ 脳性麻痺
- ・ 脊髄損傷 ・ 内因性精神障害 ・ 精神疾患
- ・ 知的・身体・精神障害者の制度やサービス

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

⑩ 障害の理解 7問

※ 学習課題(キーワード等)

- ・ ALS(筋萎縮性側索硬化症)の特徴
- ・ 障害受容のプロセス
- ・ ホーエン・ヤール重症度分類
- ・ パーキンソン病のステージ

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

⑪ ころとからだのしくみ・・・・・・・・・・8問

※学習課題(キーワード等)

- ・ 大脳の仕組みや機能
- ・ 爪と疾患の関係
- ・ 指・爪の変化や管理
- ・ 口臭及び口腔衛生
- ・ 大腿骨頸部骨折についての幅広い理解や知識
- ・ 摂食・嚥下のプロセス
- ・ 正常な尿

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

⑪ ころとからだのしくみ 8問

※ 学習課題(キーワード等)

- ・ 便秘の種類や原因
- ・ 終末期のケア

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

⑫ 医療的ケア・・・・・・・・・・・・・・・・・・1問

※学習課題(キーワード等)

- ・ 喀痰吸引に必要な物品の管理
- ・ 喀痰吸引をする際の消毒方法

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

⑬ 総合問題 8問

※ 学習課題(キーワード等)

- ・ 訪問介護員 ・ ホームヘルパーがとる行動
- ・ 介護保険の申請と各関連事業所
- ・ 介護予防サービス ・ 支援計画書と作成者
- ・ 介護過程 ・ 記録物の種類の違い

第32回 介護福祉士国家試験問題

☞ 正答率 50%以下の問題(50%を含む)

⑬ 総合問題 8問

※学習課題(キーワード等)

- ・ 社会福祉法人の役割
- ・ 精神科の入院の形態
- ・ 精神疾患の制度
- ・ 精神疾患の患者への対応
- ・ 障害者総合支援法の自立支援給付費
- ・ 補装具費
- ・ 関節リウマチのある人の生活